

富山のデザイン情報誌

offer

toyamadesign.jp



vol. **53**

富山のデザインに関するトピックス 99

商品やサービスの魅力づくりのために「デザイン」は重要な役割を果たしています。富山県では企業だけでなく公共団体や教育機関などで「デザイン」を活用した様々な取り組みが行われています。2025年、「デザイン」によってその魅力度をアップさせ話題となった富山県の「モノ/コト/取り組み」。その中から99のプロジェクトをチョイスしてご紹介します。

GRAPHIC …グラフィックデザイン AWARD …各種賞の受賞 SUSTAINABLE …サステナブルな取り組み
EVENT …イベント LAUNCH …新たに開設された施設やブランド等 PRODUCT …新商品



1 城端線・氷見線の新車両デザインを発表

2025.5
LAUNCH

城端線・氷見線再構築会議

2028年以降完成予定の城端線・氷見線の新型車両デザインが発表されました。外装は高岡、氷見、砺波、南砺からなる沿線4市の景色や自然が映り込むシルバーを基調とし、海と山を結ぶ沿線の特徴をブルーとグリーンのグラデーションで表現。内装は木目を活かした温もりある空間で、乗降ドアの窓は県西部の伝統的家屋「アズマダチ」に見られる円窓がモチーフになっています。プロダクトデザイナーの鈴木啓太さんによるデザインの全体コンセプトは「KASANE(かさね)」。伝統×未来、海×山、東西×南北、日常×観光など、4市の重なり合う魅力を表現しています。車両デザインは、富山県美術館の企画展「デザイナーの冒険展」において、特別展示されました(キュレーター桐山登士樹:富山県総合デザインセンター所長、富山県美術館副館長)。



写真左、右下 = 提供:富山県美術館、カメラマン:柳原良平

2025.03

2 富山湾鮓を高岡銅器の鋳物で再現

2025.3
PRODUCT

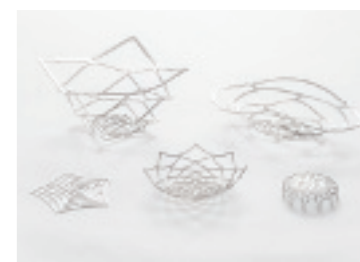


伝統工芸高岡銅器振興協同組合

伝統工芸高岡銅器振興協同組合は、創立50周年を記念して富山湾鮓オブジェを製作しました。職人が握った実物の寿司で型を取った実物大の鋳銅製で、組合員を中心とした6社がブリやホタルイカ、シロエビなど10貫を約1年かけて製作。ネタの細部や酢飯の1粒まで精巧に再現した造形を、薬品による化学変化や漆、顔料による着色、金箔・銀箔の貼り付けなどにより実物そっくりに仕上げています。大阪・関西万博で展示され、高岡銅器の技術力や富山の寿司を国内外に発信しました。

3 知財功労賞の特許庁長官表彰(デザイン経営企業)を受賞

2025.4
AWARD



能作

鋳物メーカーの能作(高岡市)は、2025年度の知財功労賞(経済産業省・特許庁主催)において特許庁長官表彰を受賞。同賞は、知的財産権制度を有効に活用し円滑な運営・発展に貢献のあった企業などを表彰するものです。伝統産業を継承しながら、優れた技術とデザインで錫100%製品の開発や、大口注文に対応できる新しい鋳造法の導入などイノベーションに取り組み、工場見学や鋳物製作体験をはじめとする産業観光にも力を入れてきたことなどが評価され、デザイン経営企業として選出されました。

2025.04

offer vol.53

- 02 富山のデザインに関するトピックス99
- 20 デザイン講習会 素材・技術・文化の持続可能な在り方を目指すHONOKAのものづくり
- 22 ナイトフォーラム 形はどこから生まれるか—ものづくりの二つのアプローチ
- 24 2025(令和7)年度 事業報告

<cover>



炭谷周也 すみにに・しゅうや

1995年富山県生まれ。富山市を拠点にグラフィックデザイナーとして活動する。2017年静岡文化芸術大学デザイン学部を卒業後、家業である「株式会社炭谷三郎商店」の総合的なアートディレクション・デザインに携わる。



表紙コンセプト:写真は自分にとって観察のための重要なツールです。観察的な視点を持つことが何かしらの役に立っていると考えています。これらの写真は、特定の場所で誰かによってドアストッパーとして機能を与えられたブロックを記録したものです。置く、並べる、積むといったプリミティブな行為によって意図せず生まれた彫刻作品のようです。デザインは意図や合理性の中で成り立つものですが、本来の意味から離れることも時には必要だと思います。

4 南砺市出身のアニメーション監督が万博パビリオンをプロデュース

2025.4
EVENT



河森 正治さん

大阪・関西万博で8人のプロデューサーがテーマごとにそれぞれ展開した「シグネチャーパビリオン」。そのうちの一つ「いのちめぐる冒険」パビリオンを、南砺市出身でアニメーション監督として活躍する河森正治さんがプロデュースしました。テーマは、「いのちを育む」。最新のVR・MR技術などを駆使して宇宙スケールの食物連鎖が体感できる「超時空シアター」や、映像・音響・振動がシンクロするミュージカル「ANIMA!」などイマーシブ空間が演出されました。

5 2027年初夏開業のPlay Earth Park Naturing Forest 概要発表

2025.4
LAUNCH



ゴールドウイン

ゴールドウイン(本店:小矢部市)は、富山県南砺市に自然体験型施設Play Earth Park Naturing Forestを2027年初夏に開業すると発表しました。桜ヶ池北側の約40haの広大な敷地に、地形のような遊具で地球との遊びが生まれる「パーク」、森の中に展望台やコテージが点在し地球の不思議を学ぶ「フォレスト」、庭園やヴィラ、キャンプ場など自然の美しさに触れる「ガーデン」の3つのエリアを計画。地域の豊かな自然や食と融合した拠点づくりを目指し、年間100万~150万人の来場を見込んでいます。

6 伝統工芸×異業種の商品開発・販路開拓を支援

2025.4
LAUNCH



富山県伝統産業支援課

富山県伝統産業支援課は、伝統工芸のさらなる振興に向け、国指定伝統的工芸品・県指定伝統工芸品の産地組合等と伝統工芸品産業とは異なる業種の民間企業等が連携して取り組む、商品開発・販路開拓を支援する補助金の募集を新たに開始しました。今年度は3団体が活用し、ハサミや和紙燻、リサイクル材と伝統工芸品がコラボした商品を製作。伝統工芸品の新たな可能性を見出す商品が続々と生まれています。

7 滑川の建築技術が万博パビリオンで採用

2025.4
PRODUCT



ATA

木造建築の設計・施工などを行うATA(滑川市)の独自工法が、大阪・関西万博でイタリア、インドネシア、フィリピンの3パビリオンに採用されました。木材と独自開発した金物を組み合わせた柱のない大空間が実現できる工法で、鉄骨造に比べて軽量化が可能。工期の短縮も図れ、今回の万博に適した工法として評価されました。イタリア館はATAの木トラス組みとコロッセオ風のデザイン、インドネシア館は船をイメージ、フィリピン館は手織物を使用した外観。各館には木材がふんだんに使われました。

8 災害時対応型パーティションを発売

2025.4
PRODUCT



アルミファクトリー

アルミ加工会社のアルミファクトリー(射水市)は、初の自社製品となる1台4役(パーティション/ホワイトボード/テーブル/ベッド)の「ALCARA(アルカラ)」を発売しました。普段はホワイトボード機能のあるパーティションやテーブルとして学校や公共施設などで使えるほか、地震や台風などの災害時には工具不要でベッドとしても使用可能。大規模な災害時には「雑魚寝」など避難所生活環境改善が課題となっているが、普段使いできるため防災直後から役立つ備品として期待されています。

9 富山発の和紙アートが万博の迎賓館を演出

2025.4
PRODUCT



川原 隆邦さん

川原製作所の和紙職人・川原隆邦さん(立山町)による和紙アートが、大阪・関西万博の迎賓館エントランス壁面を飾りました。川原さんは国指定伝統的工芸品「越中和紙」の一つ「蛭谷(びるだん)和紙」の唯一の継承者で、海外での展示や国内建築の壁面作品など独自の技術とセンスが国内外で高く評価されています。和紙アートは期間中、国内7都道府県をテーマにした連作を順次展示替え。富山を表現した作品は、立山町の地酒づくりに使われている酒米を素材として制作されました。

10 ミラノ・デザインウィークに初出展

2025.4
PRODUCT



平和合金

大型铸造と精密铸造などを行う平和合金(高岡市)は、イタリアで開催された「ミラノ・デザインウィーク2025」に初出展しました。展示されたのは、アルミ製やブロンズ製の新作6点で構成する花瓶コレクション「Unseen Objects(アンシーン・オブジェクト)」。製造過程で使用される副資材や偶発的に発生する造形など、「铸物文化の舞台裏を伝える」をテーマに制作。本来は除去されるバリや砂を活かした作品など、铸物の新しい魅力の再発見を試みた展示になりました。

12 万博で富山の廃棄予定チューリップを活用

2025.5
SUSTAINABLE



フラワーライフ振興協議会

大阪・関西万博のブルガリア館前のスペースが、同国の伝統的な模様などを描いたフラワーカーペットで彩られました。同国のナショナルデーに合わせて行われたもので、振興協議会代表理事の松村吉章さんが社長を務めるジャパン・フラワー・コーポレーション(射水市)に、駐日ブルガリア大使から相談があったことをきっかけに実現しました。フラワーカーペットには、球根栽培のために摘み取られた富山県産のチューリップ約3万5千本と、関西地方で廃棄予定だったバラなど約1万5千本が使用されました。

14 べたつかずに見た目も美しい手汗防止手袋を開発

2025.5
PRODUCT



今井機業場

生地メーカーの今井機業場(南砺市)は、手汗によるべたつきを防止する手袋「テアセシラズ」を開発しました。手首から小指までを覆う形状で、肌面には撥水性のある糸を使用し、外側には速乾性と吸水性に優れた糸を使用したオリジナル特殊生地を採用。肌と紙が直接触れないため、勉強や絵のスケッチの際に手汗でべたつきません。富山県総合デザインセンター主催の産学官連携事業「とやまデザイン・トライアル」で富山大学の学生が提案したデザインをベースに開発されました。

11 再生アルミ食器が中学校の教科書で紹介

2025.4
PRODUCT



北辰工業所

铸物メーカーの北辰工業所(高岡市)が高岡銅器の技術を活かして作った再生アルミニウムの食器が、中学校の美術の教科書に掲載されました。「FUKITO」シリーズで、デザイナーの相川繁隆さん(高岡市)によるモダンなデザインと、砂型铸物の素朴な質感が特長。2016年度にはグッドデザイン賞を受賞しました。教科書では、現代的にデザインされた伝統工芸品の好例として取り上げられ、環境に配慮したリサイクル素材を活用していることも紹介されています。

13 ガラス工房の新館長と「越翡翠硝子」を使って協働制作

2025.5
EVENT



富山ガラス工房

富山ガラス工房(富山市)の新館長に、神奈川県を拠点として活動しているガラス造形作家の高橋禎彦さんが就任しました。高橋さんは個展などを通じて国内外で高く評価されています。就任後には、富山市の藤井裕久市長や富山市ガラス美術館の館長など関係者と「富山のくすり」をイメージした記念オリジナル作品を協働制作。吹きガラスで作った瓶に、同工房が開発した「越翡翠(こしのひすい)硝子」の3色で作ったガラス玉6つを装飾しました。

15 「氷見針」の技術を活かしてペット用顔くしを開発

2025.5
PRODUCT



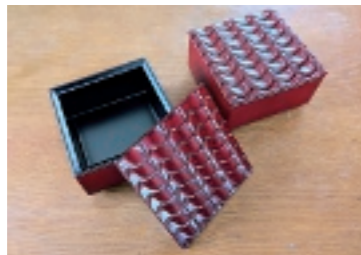
ケンシン工業

江戸期から昭和にかけ、国内有数の縫い針産地だった氷見市で製造されていた「氷見針」。その技術を受け継ぎ、現在は線材や建材など金属加工を行うケンシン工業(氷見市)は、ペット用顔くし「わんにゃんフェイスコム」を商品化しました。「氷見針」の加工技術を活かして製作した直径1.2mmという細さのステンレス製コムピンは、先端が丸みを帯びた仕上がり。ペットに痛みやストレスを感じさせないやさしいブラッシングやマッサージが可能です。

16 万博で高岡漆器と大阪欄間のコラボ作品を展示

2025.5

PRODUCT



柴田漆器店

大阪・関西万博の会場内で開催された「饗宴! 匠が演じる日本美の世界」において、高岡漆器の彫刻塗技術と大阪欄間の彫刻技術が融合した重箱が展示されました。岡本銘木店(大阪府)の欄間職人である高岡市出身の野口志津香さんが木製木地への彫刻を施し、高岡漆器の老舗メーカーである柴田漆器店(高岡市)が漆塗りを担いました。葛飾北斎の浮世絵をイメージしたという波紋を彫り込んだ木地が、伝統的な彫刻塗りの技法で仕上げられました。

17 富山の絶景をブランケットで再現

2025.5

PRODUCT



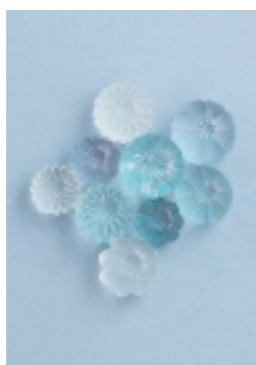
スズニット

衣服やスポーツ用品などニット製品を手掛けるスズニット(南砺市)は、富山県内の絶景を編み模様で再現したブランケットを販売。南砺市の「五箇山合掌造りの雪景色」や、高岡市の「雨晴海岸から望む立山連峰」といった富山県を代表する景勝地を描いています。太さや濃淡などの異なる糸を駆使して細かい編み目で表現した立体的なデザインは、写真のようにリアル。日常で使えるアートピースとしてのニット商品開発を行っています。

18 和菓子「きせつのさがしもの」が全国菓子大博覧会で最高賞

2025.6

AWARD



薄氷本舗五郎丸屋

老舗和菓子店・薄氷本舗五郎丸屋(小矢部市)の「きせつのさがしもの」が、「第28回全国菓子大博覧会・北海道」で一般菓子部門の最高賞である名誉総裁賞を受賞しました。同大会は約4年に1度、全国各地で開催される日本最大規模の菓子の祭典で、今回は新型コロナウイルスの影響もあり8年ぶりの開催。「きせつのさがしもの」は、ガラス造形のように美しい琥珀糖と、カクテルで表現された季節ごとの色合いが楽しめる和菓子で、同店は前回大会の干菓子「T5」に続く最高賞の獲得となりました。

19 「TOYAMA ADC 2025」柿本萌さんがグランプリ受賞

2025.6

AWARD



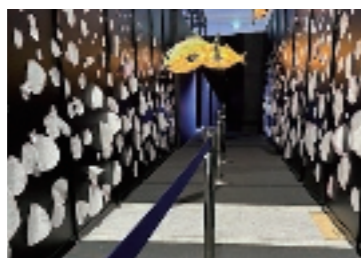
TOYAMA ADC

富山県内のアートディレクター、グラフィックデザイナーを中心に構成される富山アートディレクターズクラブ主催の「TOYAMA ADC 2025」。グランプリには、柿本萌さんによる「富山デザインコンペティション2024作品展」が選ばれました。作品はコンペのテーマ「備える」という文字のタイポグラフィをメインビジュアルにしたデザインで、ポスターやチラシ、ディスプレイやサインなどの告知物や展示会場の視覚要素として展開。入賞・入選作品は、10月に富山市民プラザで開かれた「TOYAMA ADC展」で紹介されました。

20 万博の富山県ブースを小学生の和紙作品で装飾

2025.6

EVENT



川原 隆邦さん×立山中央小学校・高野小学校

富山県は、6月27日～29日の3日間限定で、大阪・関西万博に特設ブース「寿司といえば、富山～ウェルビーイングな環境の体感～」を出展。寿司、自然、伝統工芸の3テーマのエリアが設置されました。ブースの装飾の一部は、和紙職人の川原隆邦さんの指導を受け、立山町の小学生が「富山湾」をイメージして制作。子どもたちは、富山湾の宝石・シロエビをイメージし、和紙にピンク色の染料で円を描き、和紙の「ぬれるとちぎれる」特徴を活かし手でちぎって丸い形を作りました。

21 万博で富山の伝統工芸を披露

2025.6

EVENT



富山県成長戦略課

富山県が6月27日～29日に大阪・関西万博に出展したブースの伝統工芸エリアでは、県の国指定伝統的工芸品のうち、高岡銅器、井波彫刻、高岡漆器、越中福岡の菅笠の職人が、来場者の目の前で制作の実演を行い、伝統的な技法を披露しました。また会場では、庄川挽物木地、越中和紙を加えた県内全ての国指定伝統的工芸品について、それぞれの産地の特徴や技法の分かる作品を展示し、富山の伝統工芸を紹介。富山県のブースには、3日間で5万人を超える方々が訪れました。

22 赤ちゃん和家人の安眠をやさしくサポートする揺動式ベッド

2025.6

PRODUCT



双共

住宅アルミ建材などを製造する双共(高岡市)は、赤ちゃんの夜泣きに悩む家庭に向けた揺動式ベビーベッド「ねら〜れ」を発売しました。赤ちゃん和家人が安眠できる健やかな育児環境を提供するために、胎内にいたときのようなやさしい揺れと音を再現。開発から20年にわたり試行錯誤しながらブラッシュアップを重ね、特許取得した技術により安全性と効果を兼ね備えた構造設計を実現。一般家庭のほか産婦人科にも導入されており、今後は公共施設や宿泊施設での需要が見込まれています。

24 伝統技法と精巧技術を活かしたgolferマーカーを共同開発

2025.6

PRODUCT



モメンタムファクトリー・Orii×内山精工

銅器着色メーカーのモメンタムファクトリー・Orii(高岡市)と機械加工会社の内山精工(上市町)は、ゴルフコースのグリーン上でボール位置の目印として使用するマーカーを共同開発。内山精工がステンレスを削り出して成形した本体に、Oriiが着色した銅板を組み合わせて、両社の職人が手作業で仕上げています。銅板は「青銅色」「孔雀色」「荒らし色」など高岡銅器の伝統的な着色技法で表現され、オプションで名入れやロゴ入れも可能。両社の取扱店舗やインターネットなどで販売されています。

26 庄川挽物木地師が端材で木軸ペンを制作

2025.7

SUSTAINABLE



わたなべ木工芸

伝統工芸「庄川挽物(ひきもの)木地」の工房・わたなべ木工芸(南砺市)が、端材を活用した木軸ペンを商品化して話題になっています。同工房の3代目・渡辺博之さんは、祖父の代から作業場に保管されてきた小さな端材を活用しようと試行錯誤。1本1本異なる木目が美しく目の詰まった良材だったことから、ボールペンやシャープペンシルのグリップとして加工しました。庄川挽物木地を広く発信しようと制作工程の動画をSNSに投稿したところ、中高生など若い世代から予想以上の反響がありました。

23 職人の技術と純国産桐の魅力を活かした「現代版桐タンス」

2025.6

PRODUCT



美術木箱うらた

桐箱製造の美術木箱うらた(高岡市)は、純国産桐材で製作された現代版桐タンス「APPAREL STOCKER(アパレルストッカー)」を発売しました。テーマは「ひとの『好き』を守る現代版桐タンス」。職人が手仕事で丁寧に仕上げた高気密な構造と、桐特有の優れた調湿性や防虫・防カビ効果により、大切な洋服や靴、バッグなどを安心して保管できます。シンプルでいて品格を感じさせるデザインも特徴で、単なる収納を超えたアートのような美しい存在感でインテリアシーンを演出します。

25 富大生らが開業10周年の記念ロゴを制作

2025.7

GRAPHIC



三井アウトレットパーク北陸小矢部×富山大学芸術文化学部

開業10周年を迎えた三井アウトレットパーク北陸小矢部で記念セレモニーが開催され、富山大学芸術文化学部の教員と学生が制作した記念ロゴマークが披露されました。贈り物をイメージさせるリボンで数字の「10」がデザインされ、訪れた人が館内で体験した自身の思い出を当てはめる「『○○』と『○○』が出会う場所」というキャッチコピーが添えられました。施設を幸せな時間や出会いが生まれる場所にしたいという思いが込められています。

27 「氷見ブルー」ブランド化プロジェクトがスタート

2025.7

LAUNCH



氷見ブルー
HIMIBLU

氷見ブルー実行委員会

氷見ブルー実行委員会(氷見市)は、富山湾や海越しの立山連峰、海の幸など氷見で身近に見られる「青」を地域のシンボルカラー「氷見ブルー」とし、青色の商品やサービスをブランド認定・PRするプロジェクトをスタートしました。氷見のまち全体に青色による統一イメージを持たせることで、地域の認知度向上・活性化を目指しており、認定商品に使用できるロゴも作成。第1弾としてプリンやネイルなど10商品が選ばれ、今後も随時追加される予定です。

28 万博でアルミリサイクルをテーマに出展

2025.8

SUSTAINABLE



富山大学

大阪・関西万博で全国20以上の大学や研究機関が出展した「わたしとみらい、つながるサイエンス展」に、富山大学が「未来への贈り物—アルミからはじまる資源循環社会—」をテーマに出展。同大学先進アルミニウム国際研究センターが産学官民連携で取り組んでいるアルミリサイクル研究を紹介したほか、学生や県内企業が廃アルミを再利用して製作したボールペン、テール、五箇山民謡で用いられる「ささら」などの作品を展示しました。

30 県内企業でのワークショップに全国各地のクリエイティブ人材が参加

2025.8~10

EVENT



富山県総合デザインセンター

「とやまデザイン・トライアル」では、全国からデザイン系の学生や社会人を公募し、県内ものづくり企業5社において、短期集中型のデザインワークショップも実施しました。受入企業は、アルミファクトリー(射水市)、三協立山(高岡市)、タニハタ(富山市)、小泉製作所(高岡市)、ナカノ(黒部市)。参加者は特色ある企業に一定期間滞在し、各企業からの課題テーマに対して、現場で体験した企業文化や技術を踏まえ、企画やデザインを提案。優れた提案は、商品化に向けて、引き続き連携して取り組みます。

32 開館10周年記念イベントを開催

2025.8

EVENT



富山市ガラス美術館

富山市ガラス美術館は8月22日に開館10周年を迎え、コンサートや土田ルリ子館長によるおしゃべり会などの記念イベントで節目を祝いました。また、10周年を記念して開催された企画展「Lives」の会場では、古澤おかり学芸員が作品について解説。同美術館は2015年に複合施設「TOYAMAキラリ」内にオープンし、現代ガラスアート作品を中心とした企画展や常設展を開催しており、来館者数は2025年8月時点で累計190万人を突破しています。

29 富山大学芸術文化学部とサカエ金襴が共同で商品開発

2025.8

EVENT



富山県総合デザインセンター

デザイン系学生等に富山のものづくりに興味を持ってもらうとともに、将来を担うクリエイティブ人材の確保と育成を目指す「とやまデザイン・トライアル」。今年度は、富山大学芸術文化学部の学生6名が、繊維製仏具メーカーのサカエ金襴(高岡市)と連携し、「心のととのい」をテーマに日々の暮らしを豊かにするライフスタイルプロダクトの開発に取り組みました。三井アウトレットパーク北陸小矢部のMeests GEIBUNで最終プレゼンが行われ、成果展示は多くの来場者にご覧いただきました。

31 「美のこわけ」フェアを日本橋とやま館で開催

2025.8

EVENT



富山県総合デザインセンター

「越中富山お土産プロジェクト」の第3弾として開発された「美のこわけ」。富山の豊かな自然の恵みを心と身体で楽しめるスキンケア品やアロマ雑貨、そして美への第一歩となる質の良い睡眠にアプローチする商品を揃えています。東京の富山県アンテナショップ「日本橋とやま館」で開催されたイベント『美のこわけフェア～「薬都とやま」の植物と眠り～』では、商品の展示・販売のほか、富山の薬用植物や睡眠について学べるワークショップが行われました。

33 子どもが自分で履きたくなる靴下で子育て世代を応援

2025.8

PRODUCT



助野

靴下・レグウェア製造卸販売の助野(高岡市)は、イヤイヤ期の子どもでも自分で履きたくなる靴下「いつもまえむきくつした」を発売しました。子育て中のママ社員の経験から生まれた商品で、一般のママたちとの座談会や着用アンケートを経て完成。「かかとなし設計」で、どの向きから履いても「いつもまえむき」で着用でき、履き口を丸めると仕掛け絵本のように違う柄が出る仕組みなど、子どもが興味を抱きやすく、履きやすく、また1人で出来たという達成感を育むように工夫されています。

34 富山県関係の3社が「キッズデザイン賞」を受賞

2025.9

AWARD



YKK AP、YKK、三協立山

子どもの安心安全に配慮した製品やサービスを顕彰する「第19回キッズデザイン賞」(主催・NPO法人キッズデザイン協議会)で、富山県に生産拠点を置くYKK APの「伸縮ゲート レイオス」が優秀賞(経済産業大臣賞)、「ウチモリ内窓」が奨励賞(キッズデザイン協議会長賞)に選ばれました。同社では「スマエル 室内引戸」を含め3点が受賞作品に選ばれ、14年連続の受賞。このほか、YKKの「QuickFree® click-TRAK® Magnetic」と三協立山(高岡市)の「子どもの安全を守るレジリエンス性能」が受賞作品に選ばれました。

36 万博で循環型の製品づくりを紹介

2025.9

SUSTAINABLE



ミヤモリ

スポーツウェアなどのアパレル縫製メーカーのミヤモリ(小矢部市)が、大阪・関西万博の「知的財産」をテーマとしたイベントに出展しました。同社はリペア事業として、「三井アウトレットパーク北陸小矢部」内に服の修理やリメイクのサービスを提供する店舗を展開しており、こうした循環型の製品づくりの取り組みを「知的財産」として万博で紹介。出展したブースでは、不要な衣服の生地を炭酸化させ芯材として再利用した鉛筆や、生地の裁断片を組み合わせたドレスなどを展示しました。

38 南砺地域のものづくりや「土徳」を学ぶプログラム

2025.9~12

EVENT



ジソウラボ

南砺市井波地域で活動する「ジソウラボ」は、南砺市各地域の伝統工芸の体験や人との交流などを通じて、土地に根付く精神「土徳(どとく)」を学ぶプログラムを実施しました。参加者は「井波彫刻」「五箇山和紙」「福光麻布」の3コースからいずれかを選び、9月から12月まで毎月2日間のプログラムを体験。初日に開催された土徳ツアーでは戦時中に版画家・棟方志功が身を寄せた光徳寺を訪ね、最終日には民謡運動の提唱者・柳宗悦が滞在した善徳寺で参加者それぞれが感じた「土徳」を発表しました。

35 被災古材で組子細工を製作し万博に出展

2025.9

SUSTAINABLE



タニハタ×AOIKE高等学校

能登半島地震で被災し解体される家屋から使える部材を取り出す「古材レスキュー」に取り組む県内の通信制・AOIKE高等学校の生徒が、搬出した床板で組子細工を製作しました。同校の活動を知った組子製造会社のタニハタ(富山市)が企画し、生徒たちは職人から指導を受けながら木片を組み合わせて、桔梗の葉や麻の葉など縁起がよいとされる吉祥文様を直径約1.2mの円形パネルに表現。完成した作品は、大阪・関西万博で林野庁の「Wood Change 2025」ブースに出展されました。

37 富山市岩瀬エリアでアートイベントを開催

2025.9

EVENT



松本勇馬《スカイネッコ》2025 稲藁/竹、木材

GO FOR KOGEI 2025

北陸から新たな工芸を発信する「GO FOR KOGEI 2025」が、富山市の岩瀬エリアと金沢市の東山エリアで開催されました。2020年にスタートしたイベントで、地域の象徴的な町並みや社寺を舞台に展覧会やシンポジウムなどを企画・開催してきたアートプロジェクト。6年目となる今回のテーマは「工芸的なもの」で、両エリア合わせて国内外18組の作家や職人が参加し、岩瀬エリアでは11組が栴田酒造店をはじめとする8会場にアート作品などを展示しました。

39 世界陸上の「ファイナルラップベル」を製作

2025.9

PRODUCT



老子製作所

9月に開催された世界陸上東京大会で使用された、選手にラスト1周を知らせる「ファイナルラップベル」を老子製作所(高岡市)が製作しました。同社は創業180年を超える高岡銅器の鋳物メーカーで、梵鐘においては国内シェアの6割以上を占めています。今回製作したベルは青銅製で、高さ・直径ともに20cm。錫の含有量を調整することで澄んだ高い音色が競技場に響くように仕上げられ、大会ロゴや文字は砂型鋳造で表現できる限界の細かさまで追求されました。

40 氷見市商店街の 看板キーホルダー ガチャが誕生

2025.9

PRODUCT



佳雨

能登半島地震で被災した氷見市中央町商店街の看板をキーホルダーにした「商店街看板ガチャ」が登場しました。富山大学芸術文化学部の学生のアイデアをもとに、ものづくりユニット「佳雨(かう)」(氷見市)が企画・制作したもので、ひみ里山杉とアクリルを素材に41店舗分を製作。ガチャは商店街の店舗や道の駅に設置されており、約60年続く商店街の歴史を後世に伝える新しい土産品として注目されています。売上の一部は商店街振興組合に寄付される予定です。

41 「Toyama Glass」と 「すしのまち とやま」の コラボ企画グッズが 誕生

2025.9

PRODUCT



富山ガラス工房

寿司をモチーフにしたガラス作品のスノードームボールペンと根付が、富山ガラス工房オンラインショップや富山きときと空港などで販売され人気を集めています。「Toyama Glass×すしのまち とやま」のコラボ企画グッズで、制作したのは富山市のガラス作家・久保田ゆかりさん。同工房が、久保田さんのスノードームボールペンに寿司を組み合わせるアイデアを提案したことから「寿司バージョン」が生まれました。

42 「すしのまち とやま」の オリジナルフレーム切手が 登場

2025.10

GRAPHIC



富山市観光政策課

富山市が推進している観光政策事業「すしのまち とやま」にちなんだオリジナルフレーム切手を日本郵便が富山県内の郵便局で限定販売しました。シロエビやホタルイカの寿司などのイラストがそれぞれ描かれた85円切手10枚1シートで、クリエイティブディレクターの居場梓さん監修のもと、デザイナーの柿本明さんがデザイン。親しみやすいイラストで富山の食の豊かなイメージを広く発信することで、市内の寿司店や寿司文化などのPR効果が期待されています。

43 富山市合併 20周年記念 フォトモザイクアートを 制作

2025.10

GRAPHIC



富山市文化国際課

富山市の合併20周年を記念したフォトモザイクアート7点が制作されました。市内外から寄せられた笑顔あふれる人々や美しい風景、地元グルメなど富山の魅力が詰まった写真を組み合わせ、合併前の旧7市町村を象徴する名所や伝統行事の「富山城と路面電車」(富山市)、「風の城」(大沢野町)、「有峰湖」(大山町)、「おわら風の盆」(八尾町)、「ふちゅう曲水の宴」(婦中町)、「牛岳温泉スキー場」(山田村)、「天湖森」(細入村)を表現。7作品は20周年式典で披露され、特設サイトでも公開されています。

44 GOOD DESIGN AWARD 2025 美しく視認性に優れた ウォールクロック

2025.10

AWARD



タカタレムノス

様々な空間に溶け込むスタンダードなデザインを目指した掛時計「エッセント」が、2025年度グッドデザイン賞を受賞しました。デザインは北川大輔さんが手掛け、12時間単位だけでなく5分単位のアラビア数字インデックスが併記されています。数字と針の色をリンクさせることで、子どもでも直感的に時刻を認識しやすく、クリアな印象の同社オリジナルフォントが優れた視認性を発揮。文字盤は厚手の紙で仕上げられ、エンボスや箔押しによる陰影が豊かで美しい表情を生み出しています。

45 GOOD DESIGN AWARD 2025 倉俣史朗の作品と 人物像に迫る 展覧会の会場構成

2025.10

AWARD



撮影：柳原 良平

富山県美術館

2024年2月から4月に富山県美術館で開催された「倉俣史朗のデザイナー記憶のなかの小宇宙」の、インテリアデザイナーの五十嵐久枝さんによる会場構成が、2025年度グッドデザイン賞を受賞しました。6つのパートで構成された会場は、白いステージで作品を際立たせた序盤から、スケッチの手描きのラインから着想した流動的な空間構成へと展開。床面に敷き詰めた断裁紙は、美術館などの配架を終えたチラシを活用。断裁作業への美術館ボランティアの参加や、既存資材を用いて廃棄物を抑えた点なども評価されました。

46 GOOD DESIGN AWARD 2025 新たな賑わいの拠点へ ブルバール広場 再整備

2025.10

AWARD



富山市×NiX JAPAN×GK設計

富山市が2021年から「緑の都市空間」をコンセプトに再整備を進め、NiX JAPAN (同市)とGK設計(東京都)が設計した街路空間「ブルバール広場」が、2025年度グッドデザイン賞を受賞しました。富山駅北口から富岩運河環水公園まで延びる全長約420m、幅約30mの沿道には、オーバード・ホールや総合体育館など多くの文化、芸術、スポーツ施設などが集積。イベントスペースとしても活用され、富山駅北口エリアの賑わいを創出しています。

48 GOOD DESIGN AWARD 2025 再び人が集まる 拠点を狙った ビル改装プロジェクト

2025.10

AWARD



HAJIME YOSHIDA ARCHITECTURE

1970年、歴史的な土蔵造りの建物が並ぶ高岡市の「山町筋」に生まれた西織ビル。地域に開かれたビルを目指した改装プロジェクトが評価されました。設計を担ったのは、HAJIME YOSHIDA ARCHITECTURE(高岡市)。古いビルを周囲の景観や文化と調和させるため、近接する赤レンガの建造物や地域の祭り「御車山」に用いられる赤を基調色とし、内外装の随所に高岡の伝統工芸の技術を活かして演出しました。1階にはカフェが設けられ、人々が集う場になっています。

50 GOOD DESIGN AWARD 2025 建築的な美しさを 追求した シンプルなカーポート

2025.10

AWARD



YKK AP

「プレーンルーフ」は水平な屋根と垂直な柱が印象的なアルミ製のカーポート。建築的な美しさを追求したシンプルなデザインやコーディネートを選択肢が豊富なカラーバリエーション、主張しすぎない落ち着いた質感が、住まいの外観に違和感なく溶け込みます。車の乗降がしやすい柱の配置や精度の高い止水設計によりユーザビリティを向上。あらかじめ止水材を取り付けるなど施工性も考慮されており、現場での作業負担を軽減します。

47 GOOD DESIGN AWARD 2025 室内干しニーズに 応える工事不要の 物干しフレーム

2025.10

AWARD



ナガエ

花粉やPM2.5、防犯対策などで高まる室内干しニーズに応える工事不要の天井突っ張りフレーム「S.O.U」。天井や壁に穴を開ける必要がないため賃貸住宅にも対応し、空間やライフスタイルに合わせて設置できます。機能性もさることながら、突っ張り構造の物干しにありがちな仮設という印象を払拭する堅牢な柱や、インテリアに違和感なく溶け込むシンプルなデザインも魅力。本体の素材には、リサイクル性に優れたアルミ押出型材を採用しています。

49 GOOD DESIGN AWARD 2025 子どもの成長段階を サポートする2商品が 受賞

2025.10

AWARD



リッチェル

リッチェル(富山市)の子どもの成長段階をサポートする2商品が、2025年度グッドデザイン賞を受賞しました。「トイレサポートステップスリム」は、便座に座っても足がついて踏ん張れるようにサポートするステップ。「トライすくいやすい食器」は、縁が内返りカーブ形状になっているため乳幼児でも食べ物を上手にすくうことができるお皿。どちらも子ども用の商品で、使い勝手や安心感、ケアする家族の負担軽減に配慮した点が評価されました。

51 北日本新聞広告賞の グランプリが決定

2025.10

AWARD



RMS保険センター

RMS保険センター(富山市)が展開した全7回の広告シリーズ「らしく、生きる」が、第48回北日本新聞広告賞のグランプリに選ばれました。2024年9月1日から1年間、同紙に掲載された広告が対象で、グランプリ作品は「自分らしく働ける職場」であることを訴求する求人広告。鮮やかな青を基調にしたデザインや、読者の想像を膨らませるイラストとコピーが高く評価されました。同社の受賞は7年ぶり2回目で、受賞作品は北日本新聞紙面の「新聞広告の日特集」で紹介されました。

52 「アカリエ」が 景観広告とやま賞で 大賞に選定

2025.10

AWARD



立山町防災児童館複合施設「アカリエ」

景観に配慮された優れた屋外広告物を表彰する「景観広告とやま賞」で、立山町防災児童館複合施設「アカリエ」(立山町)が大賞の富山県知事賞に選定されました。同施設は、防災機能を備えた「防災センター」と子育て支援を目的とした「こどもホーム」が一体となった複合施設として2025年1月にオープン。災害時の避難スペースや平時のイベント開催など多目的に活用できる「アカリエホール」、災害対策室として機能する「防災詰所」、屋内外の遊具や授乳室、幼児シャワー室などの設備も充実しています。

54 大切な方への 想いを包む器 「みごころ 千菊」が 経済産業大臣賞を受賞

2025.10

AWARD



山口久乗

老舗仏具メーカーの山口久乗(高岡市)の「みごころ 千菊」が、「伝統的工芸品公募作品展」で経済産業大臣賞を受賞しました。大切な人の形見を収める「かたみいれ」で、高岡銅器の伝統技法である象嵌、彫金、研磨、着色を施した真鍮製の器です。無数の小菊の花びらが立体的に彫り込まれ、花の中心には純金が象嵌されています。同品は11月から、国立新美術館で開催された同展で展示されました。

56 天然素材CNFが 人気アウトドアウォッチの ゴムバンドに採用

2025.10

SUSTAINABLE



中越パルプ工業

製紙メーカーの中越パルプ工業(高岡市)が製造する植物由来の「CNF(セルロースナノファイバー)」が、カシオ計算機(東京都)の腕時計「PRO TREK®(プロトレック)」のデュラソフトバンドに採用されました。1995年に発売開始され現在もアウトドアギアとして人気のロングセラー商品で、新作モデル(PRW-B1000)のバンドのゴム素材にCNFを練り込むことで環境負荷の低減を図るとともに、装着時のフィット感や強度を追求。CNFは天然素材として農業や化粧品などの分野で需要が高まっており、今回の採用によりゴム分野での需要拡大が期待されています。

53 漆芸家の林暁さんが 富山県内3人目の 人間国宝に認定

2025.10

AWARD



林 暁さん

伝統的な芸能や工芸の分野で高い技術を持つ「人間国宝」に、漆芸家の林暁さん(高岡市)が認定されました。県内では、彫金作家の故・金森榮一さんと、鍍金作家の故・大澤幸勝さんに続く3人目。林さんは素地の造形から塗り、仕上げに至る幅広い工程にわたり、漆芸の根幹となる「髹漆(きゅうしつ)」技法の保持者として技術を研鑽。また、工程に3DプリンターやCADなど現代の技術も取り入れてきました。日本伝統工芸展など数々の受賞歴があり、富山大学などにおいて後進の育成にも尽力しています。

55 「パッシブタウン 第5街区」が 農林水産大臣賞を 受賞

2025.10

AWARD



YKK不動産

YKK不動産(東京都)が黒部市に整備した「パッシブタウン第5街区」が、木材利用推進コンクール(主催:木材利用推進中央協議会)の優良施設部門で農林水産大臣賞に選ばれました。北陸初の木造中高層集合住宅で、オーストリアの建築家ヘルマン・カウフマンさんと竹中工務店が共同設計。設計開始1年前から富山県森林組合と連携し使用木材の87%を富山県内から調達。木材を最大限活用し、平均的な木造耐火建築物の4倍を超えるより高い脱炭素化を実現。日本の気候風土に合った木造化、木質化に取り組んだことが高く評価されました。

57 廃棄自動車から 再生した金属で ミニカー製作

2025.10

SUSTAINABLE



ネットヨタ富山×HARITA×中村製作所

ネットヨタ富山(富山市)は、廃棄された自動車の金属を再利用してミニカーを製作する「CAR to car PROJECT」をスタートしました。地場産業とともに金属資源の有効活用と環境意識の向上を図るため県内企業2社と連携。リサイクル業のHARITAが選別した金属を、鋳物メーカーの中村製作所(ともに高岡市)が鋳造してミニカーを製作しました。プロジェクトの一環として、再生金属を使ったミニカーのキットを子どもたちが組み立てるワークショップが企画・開催されました。

58 富山の組子細工と サウジアラビアの 職人技が共演

2025.10

EVENT



タニハタ

組子細工メーカーのタニハタ(富山市)が、大阪・関西万博サウジアラビア館において同国の木アーティスト・Ahmad Angawiさんと木格子を共同製作するパフォーマンスを行いました。同氏の提案により実現したコラボ企画で、同国西部ヒジャーズ地方に伝わる格子細工「マンガール」を用いたパネルに、同社の職人が伝統的な組子細工の技法でオリジナルの文様を組み合わせる製作。両国に根付く伝統的な技法と意匠が溶け合う作品が、同パビリオン内で展示されました。

60 県内のサウナ商品を 体験できる ワークショップを開催

2025.5.10

EVENT



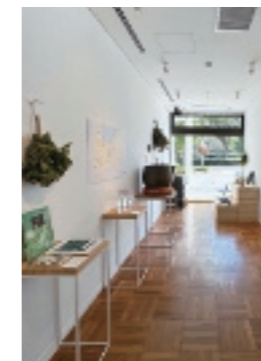
富山県総合デザインセンター

「サウナをフックにした魅力発信トライアル事業」の一環で、県内温浴施設の湯屋FUROBAKKA(黒部市)、天然温泉風の森(小矢部市)、Sauna Talo Toyama(富山市)と連携し、県内のサウナ商品や自然資源を体験できるワークショップを開催しました。サウナ坐禅専用クッション「ZAF SAUNA」を体験できる「サ禅」や、利賀村の山林で採取した樹木でつくった「ウイスク」の香りや触感を体験できる「サウナリチュアル」など多彩なイベントが展開されました。

62 富山らしい サウナ文化の可能性を 探る展覧会

2025.10

EVENT



富山県総合デザインセンター

「サウナをフックにした魅力発信トライアル事業」の一環で、サウナ展覧会「75℃ーしぜんとつながる富山のサウナ」展をD&DEPARTMENT TOYAMA(富山市)で開催しました。この展覧会では世界で活躍するアウフグースマスター五塔熱子さんをキュレーターに迎え、「サウナリチュアル」という切り口から富山らしいサウナ文化の可能性を探りました。関連イベントとして、キュレーターを務める五塔さんをゲストにお招きしたトークイベント(61掲載)も開催しました。

59 寿司と工芸の コラボ企画で 工芸寿司皿を製作

2025.10

EVENT



ツギノテ実行委員会×富山県観光振興室

高岡市で産地の未来を創る活動を展開するツギノテ実行委員会は、富山県のブランディングプロジェクト「寿司といえば、富山」と工芸とのコラボ企画として「わたしたちの、工芸寿司皿 SUSHI PLATE」プロジェクトをスタートしました。富山県で活動する24人の工芸作家や職人が、金属、漆、木工、ガラスなど様々な素材で44種類の寿司皿を製作。完成した寿司皿は、10月に高岡市で開催された「ツギノテ クラフトフェア」で初披露され、同市内の回転寿司店で実際に使用されています。

61 世界で活躍する 有識者を招いた サウナセミナーを開催

2025.8.10

EVENT



富山県総合デザインセンター

「サウナをフックにした魅力発信トライアル事業」の一環で、新たなサウナコンテンツ(商品やサービスなど)の開発機運を醸成することを目的に、世界で活躍するサウナ有識者(8月:コクヨサウナ部 川田直樹さん、10月:アウフグースマスター 五塔熱子さん)を講師としてお招きし、サウナセミナーを開催しました。県内の温浴関係者やモノづくり企業をはじめ、様々な事業者が一堂に集まり、新たな交流が生まれる機会となりました。

63 富山の優れた 製品やものづくりの 技術を国内外に発信

2025.10

EVENT



富山県ものづくり総合見本市(T-Messe)

「富山県ものづくり総合見本市」は、県などで行う実行委員会が2年に1度開催する日本海側で最大級の国際展示会。8回目となる今回は、国内企業のほか9つの国や地域からあわせて361の企業・団体が出展し、富山産業展示館で10月30日～11月1日の3日間開催されました。工作・産業機械や電子・電機、プラスチック、アルミなどの企業ブースのほか、県と富山県新世紀産業機構が取り組むBACCAIngも展示協力した「サーキュラーエコノミー」と、県ゆかりの企業等による「宇宙産業」の2つの企画展示を設け、各社の取り組みが紹介されました。

64 富山空港オリジナルグッズブランド「&・TOY」の新商品が続々誕生

2025.10
LAUNCH



富山空港ターミナルビル

富山空港ターミナルビル(富山市)は、富山空港オリジナルグッズブランド「&・TOY(アンドトイ)」を立ち上げました。第1弾として空港内のガチャガチャで県内16酒蔵とのコラボによる空港限定おちょこを販売。その後も、富山らしい絵柄がデザインされたスーベニアバッグ、航空機のレーダーをモチーフにしたステッカーやコースター、県出身の漫画家の柳内大樹さんが人気漫画「ギャングキング」のキャラクターが富山空港で過ごす様子を描き下ろしたTシャツなど、相次いで新商品が発売されました。

65 富山ならではの技術を活かしたシザーラック 3シリーズを発売

2025.10
PRODUCT



シザーズジャパン×柴田漆器店・中村製作所・富山ガラス工房

美容師・理容師用ハサミの製造・販売を手掛けるシザーズジャパン(黒部市)は、高岡漆器、高岡銅器、ガラスといった富山県の地場産業の技術を活かしたシザーラックを商品化しました。第1弾として10月に、富山ガラス工房の作家が1点1点丁寧に仕上げた「越翡翠(こしのひすい)」「越碧(こしのおお)」「越琥珀(こしのこはく)」「クリア」の4色のガラスシリーズを販売開始。続く新商品として中村製作所による銅器シリーズと柴田漆器店による漆器シリーズも発売されました。

66 最後の富山県民手帳を発行

2025.10
PRODUCT



富山県統計協会

富山県統計協会が発行する「富山県民手帳」が、紙手帳のニーズの低下などを背景に、令和8年版で発行を終了することになりました。確認できる一番古いものは1957年版で、70年の歴史があります。最後となる今回は、表紙カバーに立山の稜線をあしらった特別仕様。富山に関する各種統計データが掲載されているほか、県内を代表する祭りを写真付きで紹介するなど、富山の情報が盛りだくさんの1冊となりました。

67 ジャポニカ学習帳の表紙デザインを刷新

2025.11
GRAPHIC



ショウワノート

ショウワノート(高岡市)は、主力ブランド「ジャポニカ学習帳」の表紙を大幅にリニューアルしました。長年にわたり使われてきた昆虫や植物の写真から、「共生」をテーマに描かれた動植物の親しみやすいイラストに刷新。表紙のシンボルカラーとして定着していた緑も見直し、教科ごとに赤や青などで色分けしています。アートディレクションはデザインチームminna(ミンナ)(東京都)が担当。イラストは絵本作家ユニットtupera tupera(ツペラ ツペラ)(京都府)が全39種類を描き下ろしました。

68 日本製材技術賞の最高賞「農林水産大臣賞」を受賞

2025.11
AWARD



岸田木材

老舗製材所の岸田木材(氷見市)は、全国木材組合連合会が主催する日本製材技術賞において最高賞の農林水産大臣賞を受賞しました。同社の高い木材加工技術に加え、地元産材を「ひみり山杉」としてブランド化し利用拡大に貢献したことや、木育・地域連携を軸にした循環型の取り組みを高く評価。技術賞は、多岐にわたる製材工場の生産技術を審査、表彰するもので2024年から設けられ、県内では初の最高賞受賞となりました。

69 企画展「DESIGN with FOCUS デザイナーの冒険展」を開催

2025.11
EVENT



富山県美術館

20代から40代のデザイナー、アーティスト、建築家など、これからの時代を切り拓こうとする11組のクリエイターによる「デザイナーの冒険展」が開催されました。布にハサミを入れることで柄をアレンジできるテキスタイルや、動きと音によって深呼吸を促す卓上オブジェクト、通常破壊される建築部材を使用した椅子など、様々な作品を展示。既存の枠にとらわれず、実験的で独創的なアプローチを通じて、創造性の可能性を拡張しようとする若きクリエイターたちの挑戦や、多様な課題に真摯に向き合い、楽しみながら取り組む姿勢が紹介されました。

70 高岡銅器と高岡漆器の器でフランス料理を提供

2025.11
EVENT



ホテルニューオータニ高岡

ホテルニューオータニ高岡(高岡市)は、ホテル内の「トップレストラン フォーシーズン」で地元のものづくりと料理が融合した「伝統と革新の晩餐2025秋～美と味 技の競演～」を開催しました。伝統と革新の技で作られた高岡銅器や高岡漆器の器でフランス料理を提供する特別企画で、6回目の開催となる今回は、市内11の企業や団体が協力。錫やアルミ、漆塗りの器に八尾黒豚のロースハムやますずし風のサーモンマリネなど地域の特色ある料理がビュッフェ形式で用意されました。

72 日本のベニス「内川」に漁師町の暮らしを体感できるオーベルジュ誕生

2025.11
LAUNCH



ひと・いき

地域資源プロデュース事業などを行う「ひと・いき(東京都)は、射水市の内川沿いに1日1組限定のオーベルジュ「AKAMA富山」をオープンしました。漁師の番屋だった2階建ての空き家をリノベーション。空間デザインはグリーンノートレーベル(射水市)の明石博之さんが手がけ、内川を借景として活かした設計と、漁船や漁具などをイメージしたインテリアで空間を演出しました。また、同じ内川を拠点とする水産加工物販売のIMATO(射水市)と連携。その日の漁で獲れた新鮮な魚を使い、シェフがゲストごとにオーダーメイドでコース料理を提供します。

74 「サウナーにとって魅力ある富山県」をテーマに湯上がり専用飲料を発売

2025.11
PRODUCT



五洲薬品

五洲薬品(富山市)は、サウナ施設や入浴施設の利用者向けに水分補給を目的とした「トウゲンゆばり飲料」を発売しました。全国的なサウナブームのなか、富山県でもサウナの魅力発信に向けた事業に取り組んでいることもあり、富山県総合デザインセンターや入浴施設などの協力で製品開発に着手。クエン酸配合の新感覚飲料となりました。サウナと入浴をイメージしたラベルデザインは、温浴施設などと相談して決定。サウナ・入浴施設のほか、とやマルシェ内「GOSHU」および五洲薬品オンラインショップでも販売予定です。

71 ユニークな寿司ネタ LINEスタンプで魚津水族館を応援

2025.11
LAUNCH



富山北部高校

富山北部高校情報デザイン科の生徒たちが、24種類のLINEスタンプを魚津水族館に寄贈しました。地域貢献として2022年度から取り組んでいる研究の一環で、同館のLINEスタンプ制作は2024年度に続く第2弾。生徒たちで構成する「チーム・キラリウム」の5人が制作したスタンプは、同館のキャッチフレーズ「寿司ネタ見るなら、魚津水族館」にちなみ寿司ネタをモチーフにしたキャラクターと、「心の支え(サザエ)」「ぴえんがわ」「ひさし鱈(ブリ)」などの駄洒落のフレーズが配置されています。

73 無印良品のリノベーションを展開する「MUJI HOUSE」の協力により旧社宅をフルリノベーション

2025.11
LAUNCH



北陸電力

北陸電力(富山市)は、旧社宅を一般向けの賃貸住宅として再生しました。手掛けたのは、無印良品を展開する良品計画のグループ「MUJI HOUSE」(東京都)で、既存建物の資産価値向上を目的に、全国で初めて1棟まるごとリノベーションを実施。室内は、高性能の断熱材や二重サッシで快適性を求め、一部にコンクリートの質感を活かしたインテリアなどシンプルでスタイリッシュな雰囲気演出。間取りも見直され、暮らしや家族構成の変化に合わせてカスタマイズできる可変性の高い設計になっています。

75 機能性とデザイン性に優れた新スキーウェア「OYABE」を発売

2025.11
PRODUCT



ゴールドウイン

ゴールドウイン(小矢部市)は、2025年秋冬シーズンのスキーウェアのプレミアムコレクションに「OYABE(オヤベ)」と名付けた、機能性とデザイン性に優れたアイテムを発売しました。主に使用されている天然素材のウールならではの光沢を活かしたジャケットやパンツ、断熱性と軽量性を兼ね備えた中綿を使用したジャケットなど、男女合わせて12種類。全体的に丸みとゆとりをもたせたオーバーサイズフィット仕様が特徴で、今後は中国や欧州など海外展開も視野に入れています。

76 「寿司といえば、富山」のモニュメントベンチを寄贈

2025.11

PRODUCT



称名土木

土木工事などを手がける称名土木(立山町)は、富山県が推進するブランド戦略「寿司といえば、富山」に賛同し、ロゴマークをイメージしたモニュメントベンチを県に寄贈しました。幅約180cm、高さ・奥行きともに約80cmのモルタル製で、建設用3Dプリンターで造形。県の民間活力導入・財産活用課や商工企画課などとデザインを検討し、シャリの質感やネタの形状など細部までこだわり仕上げました。同社では、建設業の若手技術者が減る中で建設業に関心を持ってもらうきっかけになることも期待しています。

78 富山の海産物を真鍮でリアルに表現

2025.11

PRODUCT



TAPP

高岡銅器の原型製作やアウトドア製品のデザインなどを手掛けるTAPP(射水市)は、県特産の海産物を精巧に表現した真鍮製の箸置きを商品化しました。同社は手作業による伝統的な造形技術と、最先端の3Dモデリングの事業を展開。2024年2月に能登半島地震の復興支援としてチャリティー販売した樹脂製の箸置きが好評だったことから、富山をPRする土産品としてブリ、ホタルイカ、シロエビ、カニ、ゲンゲの5種類を、真鍮製の鋳物で本物そっくりに再現しました。県内の土産店や東京都内にある県のアンテナショップでの販売を予定しています。

80 M55シリーズの量産モデル第2弾を発売

2025.11

PRODUCT



光岡自動車

光岡自動車(富山市)は、2023年に創業55周年を迎えたことを記念して開発された新型車「M55(エムダブルファイブ)」シリーズの「M55 1st Edition(ファーストエディション)」を全国のミツオカ取扱拠点で販売開始しました。2024年に量産モデル第1弾として発売された「M55 Zero Edition(ゼロエディション)」に続く第2弾で、カラーバリエーションとグレード構成を一新。外装カラーは、標準4色に加えてオプション6色の合計10色から選択可能で、ハイブリッド車の「e:HEV LX」と「e:HEV EX」、ガソリン車の「LX」という3グレードをラインアップしています。

77 コストを低減したEV(電気自動車)ミニカーを発売

2025.11

PRODUCT



タケオカ自動車工芸

1人乗りミニカーを設計・製作するタケオカ自動車工芸(富山市)は、中国の協力会社に製造を委託することでコストを抑えたEVミニカー(原動機付四輪自転車)を開発・発売しました。「Espa(エスパ)」と「Yanki(ヤンキ)」の2種類で、車体サイズは全長231cm、幅110cm、高さ154cm。地域における高齢者の移動手段確保という課題に応える車両としても期待されています。車庫証明や車検の必要がなく、一般住宅用の100Vコンセントで充電が可能。災害時には蓄電池としても活用できます。

79 高岡銅器の伝統技法で錫製バングルを商品化

2025.11

PRODUCT



般若鋳造所

鋳物メーカーの般若鋳造所(高岡市)は、異なる金属を溶かして型に流し込む伝統技法「吹き分け鋳造」で製作したバングルを開発しました。純錫と錫合金による白と黒の模様が特徴的で、金属の温度や流れ方によって唯一無二のデザインが表現されます。同社とデザイナーの野本美咲さんが4年前から取り組む商品開発プロジェクトで、情報発信などは日本青年会議所の「地域ブランド確立委員会」が支援。市内の地場産品取扱店やイベント、富山県の商品を扱う県外のアンテナショップなどで、2026年春以降の販売を予定しています。

81 中央通り商店街の工事用フェンスにアートを投影

2025.12

GRAPHIC



中央通りD北地区市街地再開発組合

再開発事業が進む富山市中心市街地の中央通りで、建設工事のために設置されているフェンスがアート作品で演出されました。商店街の景観向上や賑わい創出のために、中央通りD北地区市街地再開発組合が企画したアートプロジェクト「ツナグヒカリ」で、高さ約3m、延長約100mのフェンス全面を活用。組合員や住民から募ったアイデアをもとに、スタンドグラス風のデザインなどが投影されました。再開発事業は、アイススケート場や商業施設、マンションの複合施設が整備される予定で、2027年夏頃の開業を目指しています。

82 環境に配慮したファスナー用引き手が最優秀賞を受賞

2025.12

AWARD



YKK

YKKは、ドイツで開催された世界最大級のスポーツ用品展示会「ISPO(イスボ)」の優れた製品やサービスに贈られる「ISPOテックトレンドアワード」において、ファスナーやボタンなどを対象とした「アクセサリ部門」で最優秀製品賞を受賞しました。金属のファスナーに取り付ける樹脂製の「3D複合引手」で、石油由来の原料ではなく植物や廃材を使用した環境配慮型の製品。スタートアップ企業Variloom社のオンデマンド3Dプリント成形システムの採用により、従来の射出成形では再現が難しい形状や質感、色などが可能になりました。

84 優れた富山プロダクツとして今年度17点を選定

2025.12

EVENT



富山県総合デザインセンター

富山県総合デザインセンターでは、富山県内で企画または製造されている性能、品質及びデザイン性に優れた工業製品を「富山プロダクツ」として認定し、富山ブランドとして国内外に情報発信し、企業の販路開拓を支援しています。今年度新たに17点が選定され、12月11日から2月8日までD&DEPARTMENT TOYAMA(富山市)で開催された「富山プロダクツ2025展」において、選定商品の展示・販売が行われました。

86 富山デザインコンペティション2025の受賞作品を展示

2025.12

EVENT



富山デザインウエーブ

富山県、富山市、高岡市が「富山から世界に発信するデザインムーブメント」をキャッチフレーズにスタートした本県を代表するデザインイベント「富山デザインウエーブ」。今年で32回目となる「富山デザインコンペティション」では、募集テーマ「ガラスとメタル」に対し159点の応募があり、審査の結果、グランプリ作品と入賞作品の計10点が決定しました。富山ガラス工房(富山市)と高岡市デザイン・工芸センター(高岡市)において受賞作品の展示が行われたほか、デザインの視点から地域に根付く素材の魅力を改めて考えるギャラリートークも開催されました。

83 高岡クラフトコンペの東京展を約10年ぶりに開催

2025.12

EVENT



工芸都市高岡クラフトコンペ実行委員会

37回目を迎え、2年に1度のピエンナーレとなった「工芸都市高岡クラフトコンペティション」。その入賞・入選作品の一部を展示した東京展が「GOOD DESIGN MARUNOUCHI(東京都)」で開催されました。期間中、会場では、大阪・関西万博の富山県ブースでも好評だった、和田彫金工房(高岡市)の職人による金属に文様を彫り込む「彫金」と、漆芸 吉川(同)の職人による漆に貝や卵殻で絵を描く「蒔絵」の実演が行われました。

85 「美のこわけ」の世界観を伝える睡眠リトリートを企画

2025.12

EVENT



富山県総合デザインセンター

富山の素材を活かして丁寧に作られたスキンケア品やアロマ雑貨を扱う富山県のお土産ブランド「美のこわけ」。「質の良い睡眠」が美への第一歩と捉え、富山の美しさ・豊かさに触れながらよりよい睡眠につながる新習慣を体感いただく場として、土肥邸母屋(立山町)において1泊2日の睡眠リトリートが行われました。睡眠や食、植物など各分野のエキスパートをお招きし、よい睡眠につながる様々な習慣を学び体感する機会となりました。

87 「ケロリン」100周年の記念にケロリン白桶を復刻

2025.12

EVENT



富山めぐみ製薬

製薬メーカーの富山めぐみ製薬(富山市)が解熱鎮痛薬「ケロリン」の発売100周年を記念し、復刻版の「ケロリン白桶」を数量限定で発売しました。ケロリンの宣伝として1963年から全国の銭湯に置かれたケロリン桶は、誕生した当初は白色。汚れが目立つなどの理由から短期間で黄色の桶に変更されたため、白桶は「幻のケロリン桶」とも呼ばれています。復刻版は発売当時のカラーを再現し、「100th Anniversary」「since 1925」の文字をプリント。ケロリン桶と同じ工場で作られた、1/6スケールの白桶のキーホルダーも同時発売されました。

88 学生、企業、地域が一体となった地域再生プロジェクト

2025.12

LAUNCH



MAE

立山町で「村づくり」を実践する医薬品メーカーのMAE(富山市)は、富山国際大学の学生インターンと共同で立山町にある築100年以上の納屋をリノベーションした一棟貸切型の宿泊施設「土肥邸 Naya(どいてい なや)」をオープンしました。「学生主体の地域再生プロジェクト」として始動し、約1年にわたり企画立案、事業計画、金融機関との調整、デザイン検討、現地視察など数十回に及ぶミーティングを実施。使われていなかった納屋が、「家族や仲間と絆を深める場」として再生されました。

90 氷見の魅力が詰まったギフトセットを発売

2025.12

PRODUCT



北日本新聞社×氷見市16事業者

北日本新聞社(富山市)と物産販売を手がける氷見市の16事業者は、市内の特産品を詰め合わせたギフトセット「氷見のたまもの」を商品化しました。能登半島地震からの復興支援を目的とし、氷見の魅力発信や被災事業者の販路拡大につなげるプロジェクトで、昨年に続く2回目の取り組み。パッケージには、富山の魅力を表現した「富山もよう」のデザインが使用され、里山や海の幸を詰めた「里山からの贈り物」「里海からの贈り物」など4種類が、県内外で開催された物産展やオンラインショップなどで販売されました。

92 富大生の提案から生まれた藍染めへちまサウナマット「meri」

2025.12

PRODUCT



へちま産業

へちまの栽培から製品の製造・販売までを手がける「へちま産業」(射水市)は、速乾性や通気性などへちま繊維の特長を活かしつつ、藍の経年変化も楽しめる、藍染めへちまサウナマット「meri」を開発しました。富山県総合デザインセンターの産学官連携事業「とやまデザイン・トライアル」での高田梨乃さん(当時富山大学学生)の提案がきっかけになり、魚津市で「藍染め屋aiya」を営む南部歩美さんも協力のもとデザインを検討。同大学の内田和美教授によるアドバイスを経て商品化につなげました。12月に発売を開始し、サウナ施設などへの販路拡大を目指しています。
※meriはフィンランド語で海を表します

89 「ハンドフィルルーム」でウイスキーを汲み出す特別なボトリング体験

2025.12

LAUNCH



若鶴酒造

若鶴酒造(砺波市)は、ウイスキー蒸留所「三郎丸蒸留所」に、ウイスキーを樽から直接ボトルに注ぐハンドフィルが体験できる「ハンドフィルルーム」を新設しました。酒造りの現場を見学してもらい産業観光の一環で、新たな蒸留所エンターテインメントを提供します。体験付きの見学ツアーでは、参加者が2種類の樽から1種類を選び、老子製作所(高岡市)に特注した「バリランチ」という道具で700mlのボトルに汲み出します。手書きのラベルを貼ったボトルは記念に持ち帰ることができ、そのほかテイスティングやお土産もセットになっています。

91 合掌集落の世界遺産30周年を記念した「おからビール」を発売

2025.12

PRODUCT



南砺市観光協会五箇山支部×NAT.BREW

南砺市観光協会五箇山支部は、相倉と菅沼の合掌造り集落の世界遺産登録30周年を記念して、五箇山豆腐のおからを使ったクラフトビールを企画・開発しました。同市井波の醸造所「NAT.BREW(ナット・ブリュー)」に醸造を依頼したもので、ラベルデザインは同市在住のデザイナーでアーティストの小林圭介さんが担当。330ml入りの缶ビール799本が、合掌集落のある同地域の酒販店や土産店などで限定販売されました。

93 観光庁「サステナブルな旅アワード」の大賞を受賞

2026.1

AWARD



富山県西部観光社 水と匠

持続可能な旅行商品を表彰する観光庁の「第3回サステナブルな旅アワード」で、富山県西部観光社 水と匠(高岡市)の「カイニョお手入れツアー ～次世代へ紡ぐ、散居村保全と循環型社会の再生～」が大賞に選ばれました。「カイニョ」とは、砺波平野の散居村に点在する住居の屋敷林。住居における資源循環の重要な要素でしたが、住民の高齢化や燃料・建材としての需要減少などにより維持が難しくなる中、同社は散居村の文化的価値を伝えながら、屋敷林の手入れや剪定枝を用いた精油づくりなどの体験ツアーを行っています。

94 富山県内最大級の複合施設型自動車販売店舗が2027年秋に誕生

2026.1

LAUNCH



ネットヨタ富山

ネットヨタ富山(富山市)は、県内最大級の複合施設型店舗を高岡市に開業する予定であると発表しました。自動車の販売・整備機能のほか、飲食店やドッグサロン、インテリアギャラリーなどのテナント、コワーキングスペース、ドッグランを備える計画。また、生成AIをはじめとする先進的なデジタル技術を活用し、ハード(空間)とソフト(イベント・サービス)とデジタル(生成AI・データ)の視点から、従来の自動車ディーラーにはない顧客体験の提供を目指しています。

96 東京オートサロンで新作アルミ鍛造ホイールを発表

2026.1

PRODUCT



BBSジャパン

鍛造ホイールメーカーのBBSジャパン(高岡市)は、幕張メッセ(千葉県)で開催された世界最大級のカスタムカーの祭典「東京オートサロン」で新作ホイール「RT88」を発表。同社のレーシングホイール「E88」をベースに、公道仕様として耐久性を追求し改良され、インナーリムとアウターリムを一体にして強度が高められています。世界中のカー用品店で取り扱われ、高級スポーツカーなどのカスタマイズ用に装着されることを想定しています。

98 大学と連携し身体への負担軽減に配慮した椅子を開発

2026.2

PRODUCT



波多巖木工所×北里研究所/北里大学

木工製品を製造する波多巖木工所(南砺市)と、北里研究所/北里大学(東京都)は、同研究所が取得している特許技術を活かした椅子を共同開発。角度調節機構を備え、座面後部が0度から25度へ5段階に傾斜する構造により腰や肩への負担軽減が期待されるもので、東京ビッグサイトで開催された「WOOD コレクション(モクコレ)2026」に、試作品が出展されました。双方をマッチングしたのは富山県新世紀産業機構で、北里大学の高平尚伸教授に同社を紹介。年内に同社オンラインショップでの発売開始を目指しています。

95 富山・石川の素材を活かしたクラフトジンが誕生

2026.1

PRODUCT



NTG

能登の蒸留酒や炭酸飲料などを製造・販売するNTG(黒部市)は、パタパタ茶(朝日町)やユズの皮(石川県珠洲市)など富山県や石川県産の素材を活用したクラフトジン「CHA-CHA-CHA」を発売しました。珠洲市で能登半島地震や豪雨被害を経験後、新天地を求めて黒部市で再スタート。多くの人々に支えてもらった感謝の気持ちを込めた新商品のコンセプトは「心が温まるようなホットにしても美味しいジン」。入善町出身の3人によるベンチャー企業Teens Ventureがデザインした透明プラスチックのラベルは、スタンドグラスのように光が透過する仕掛けです。

97 仏具製造の金型を花器の台座としてリメイク

2026.2

PRODUCT



ナガエプリウス

仏具などを製造するナガエ(高岡市)から生まれたブランド「NAGAE+(ナガエプリウス)」。そのデザインやブランディングを手掛けるナガエプリウス(東京都)は、真鍮製の台座とガラス管を組み合わせた花器「a/sym(アシム)」を発売しました。台座には、仏具の花立てを製造する際に用いる「中子(なかご)」と呼ばれる部材をそのまま使用。現代の暮らしにおいて仏壇・仏具の在り方が変化の中で、仏具製造の現場で使われる部材を魅力的な素材として新たな用途へと転用した、新しい商品開発の取り組みです。

99 環境問題の解消に向けて駆除ウニ殻で下着を開発

2026.3

SUSTAINABLE



あつみファッション×とやまのめ×氷見高校海洋科学科

下着メーカーのあつみファッション(氷見市)は、ウニ殻を活用したボクサーパンツを商品化しました。ウニが海藻を食い荒らす「磯焼け」防止のため、ウニの駆除と再利用に取り組む氷見高校海洋科学科と、とやまのめ(射水市)が進める「ウニとやさいクルプロジェクト」の一環で、この活動に賛同した同社が綿の糸に炭化したウニ殻を練り込んだ生地を開発。消臭・抗菌効果に優れ、環境配慮型の製品として注目されています。今後は、同社のECサイトや道の駅などで販売される予定です。

素材・技術・文化の 持続可能な在り方を 目指すHONOKAの ものづくり

期日：2025年7月25日(金)
会場：富山県総合デザインセンター バーチャルスタジオ

鈴木 僚 すずき・りょう
HONOKA共同代表
金沢美術工芸大学製品デザイン専攻卒業。
インハウスデザイナーとして、楽器・家電・
社会インフラ等のデザインに携わりながら、
HONOKAのメンバーとして活動している。

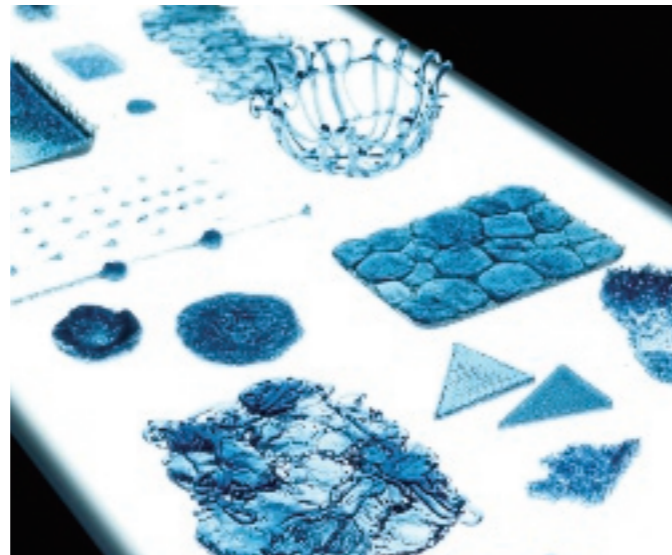


藤原 和輝 ふじわら・かずき
HONOKA共同代表
首都大学東京インダストリアルデザイン
アート学科卒業。国内自動車メーカーで先
行開発に従事し、見栄えだけでなく体験価
値に基づく内装デザインを行いながら、
HONOKAのメンバーとして活動している。

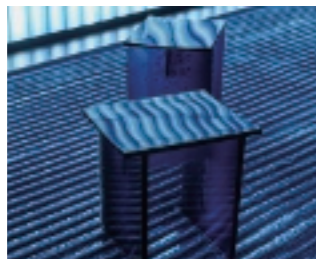
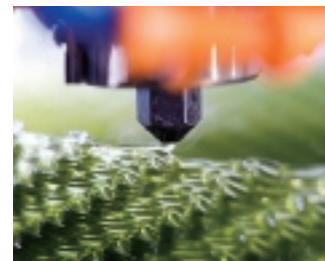
「HONOKA(ほのか)」は、素材の魅力を独自の視点で再解釈し、その魅力をほのかに感じさせる製法を通じて、受け継がれてきた文化を次世代へとつなぐものづくりを行うプロダクトデザイナー5名によるデザインラボ。そのメンバーである鈴木僚氏と藤原和輝氏を講師に迎えました。前半は、世界最大規模の家具見本市ミラノサローネ2023「サローネ・サテリテ」部門でグランプリを受賞した「TATAMI ReFAB PROJECT」を鈴木氏が、後半は、ウォーターサーバー業界大手のアクアクララ社と共創した「TRACE OF WATER」を藤原氏がそれぞれ紹介。2つのプロジェクトを通して、HONOKAの思想とその背景をお話いただきました。



TATAMI ReFAB PROJECT



TRACE OF WATER



TATAMI ReFAB PROJECT

● HONOKAについて
HONOKAは、企業のインハウスデザイナーや大学の教員など、異なる背景を持つ若手プロダクトデザイナーで構成。自主的に集まったフラットな関係性のチームで、素材の研究開発からプロダクト開発、プロモーション、商品化、社会実装まで一貫して取り組む。個人的には、普段の仕事ではできないような従来にない素材の活用方法など、新しい発見を楽しみながら活動している。

● 廃棄素材と3Dプリンター
大型3Dプリント技術によって、畳を現代の暮らしに編み直すというテーマのプロジェクト。取り組むきっかけは、メンバーの1人が近所の畳屋さんから大量に廃棄されるイグサを目にしたこと。畳表を製造する過程で不揃いのものや端材の部分が捨てられてもったいないと感じる一方、別の側面として畳の需要減少で畳職人やイグサ農家が減っていて産業存続の危機という背景を知った。国産イグサを使って新しい価値のあるものを開発すれば、素材の有効活用だけでなく地域産業の活性化につなげられるのではないかと考えたのがはじまり。まず素材開発から着手しようと粉砕機でイグサを抹茶パウダーのように細かく加工して、何種類もの樹脂と混ぜ合わせる実験を行った。最終的に生分解性樹脂である酢酸セルロースに辿り着き、イグサ入りの樹脂ペレットを自主開発。それを大型3Dプリンターで家具に成形するのだが、樹脂の調合や機械の操作によっても違った形状や質感が生まれる。検証を繰り返しながら、出力したパーツを組み合わせ椅子やテーブル、照明などの試作品を製造していった。

● ミラノサローネでの受賞
こうして生まれた作品をイタリアで開催された「ミラノサローネ2023サローネ・サテリテ」に出展。HONOKAの取り組みを知っていただくために、ブースの一角でコンセプトや製造過程を紹介した。作品だけでなく考え方も理解してもらえたと感じている。審査でも評価され、ありがたいことにグランプリをいただいた。日本でも多くのメディアに取り上げられたので、このような活動が知られることでイグサや畳の産地にも還元できれば意義があると思う。

● 商品開発/社会実装
私たちの最終的なゴールは、商品開発や社会実装。少しずつだが着実に進んでいるのでご紹介したい。まず百貨店へのポップアップ出店。単に販売するだけでなく、コンセプトを伝えるために展示会場の演出も提案し、畳表を使用したディスプレイ什器をデザインし手づくりで仕上げた。この百貨店とはコラボレーションで畳樹脂製の照明も開発している。他にも水面下で進行中の案件があるので実現させたいと思っている。
大切なのは産地と一緒にものづくりをすることであり、いかに還元していくかということ。畳製造時に廃棄されるイグサを産地から買い取り、プロダクトを製造することで地域に還元するモデルとして、需要が減りつつある産地においてもアクションを起こし、新しい需要の創出や産業の活性化につなげられるように地域と連携して活動していきたい。

TRACE OF WATER

● ボトルのアップサイクル
ウォーターサーバーのボトルには使い捨て方式もあるが、アクアクララ社は環境問題に対する意識が高く、使用後に回収・再利用するリターナブル方式を採用している。それでも経年劣化などが理由で廃棄されるボトルが大量になるということで、その課題に取り組むために声が掛かった。
私たちが力になれるのか確かめようと、まず現状を把握するために工場を見学。十分に使えるようなボトルが廃棄用として山積みされている様子を目の当たりにして、使い終わったボトルを新しい価値のあるものにアップサイクルするのを感じた。ボトルを粉砕したり熱で溶かしたり試行錯誤を重ねた結果、長期間使用したボトル素材は多くの水分を含有しており、熱を加えると大量の気泡が発生することを発見。その美しい質感を「水の痕跡」というフレーズで定義し、これを英訳した「TRACE OF WATER」をプロジェクトのコンセプトとした。

● 建材として半永久的に使用
ボトル素材であるポリカーボネートは、石油由来の樹脂なのでヨーロッパなどでは使用が制限されている。こうした素材をアップサイクルするのであれば、すぐに役割を終えて廃棄されるものではなく、長期的に利用可能なものである建材が有効と考えて床材や壁材として用いる樹脂製タイルを提案した。表情の違う7種類のタイルを開発し、そのテクスチャーを応用して花器やスツールなどのプロダクトにも展開。使用後は粉末化して「塗る建材」(左官材料)として再利用することまで視野に入れている。

● 展示会場の空間もデザイン
作品をデザインして終わりではなく、その魅力やコンセプトを最も理解する我々自身で、展示会場の空間デザインなども手掛けている。たとえば、イタリアでの展示だと事前に現場を下見できないので、CGでシミュレーションしながら納得できるクオリティを追求した。そこまで責任を持って検証する姿勢もHONOKAの強みだと思う。
そういった努力が実を結んだのか、ミラノデザインウィーク「Fuorisalone Award 2025」サステナブル部門での作品展示が最終選考に選出され、現地メディアに取り上げられたこともあり大勢の人に作品を見てもらえた。環境リテラシーの高いイタリアだが、デザイン意識も高いのでクオリティが低ければ見向きもされない。サステナブルな側面だけでなく、デザイン的にも評価されたことは自信になった。さらには、環境に配慮したデザインを表彰する「GREEN GOOD DESIGN AWARD」を受賞。国際的なアワードで評価いただいたことで、HONOKAの活動が間違っていないことを確信した。

● 社会の中で展開
こうした活動を知った企業からも声が掛かり、国内大手の内装やオフィス家具の企業、海外の飲食店など多様な業界から引き合いがある。コンセプト段階で終わらせず、社会実装していくことで世の中に新しい価値を創出し、ウォーターボトルの廃棄量削減にもつなげていきたい。

形はどこから生まれるか —ものづくりの 二つのアプローチ

期日：2025年9月24日(水)
会場：Glass×Café Clie

今回のゲストは、2025年5月、富山ガラス工房の新館長に就任したガラス造形作家・高橋禎彦氏。高橋氏はものづくりについて、「大きく2つの道のりがあるように思います。ひとつは『こういったものを作りたい』という客観的・社会的な必要から目標を設定して始まる道。もうひとつは、目の前の素材をこね回しているうちに洗練されて目標にたどり着くという道です。その2つは相反するものではなく、方向が違っただけで目標は同じです」と語ります。ガラス制作に対する考え方や取り組み、作品や技法についてスライドを交えながらお話しいただきました。



高橋 禎彦 たかはし・よしひこ
ガラス造形作家、富山ガラス工房館長
1958年東京都生まれ。1980年多摩美術大学美術学部立体デザイン専攻プロダクトデザイン専修クラフトデザインコース卒業、多摩美術大学美術学部立体デザイン専攻研究室助手(～82年)。1982年～84年ガラスハウスアムヴァサートゥルム工房アシスタント(ラインバッハ、ドイツ)。1985年神奈川県相模原市に工房開設。2009年～21年多摩美術大学准教授/教授。2025年富山ガラス工房館長。



さわれないもの



謎



ワイングラス



なんてこった



ピッチャー

■ 「宙吹き」技法との出会い

僕のガラス制作は、完成形のデザインスケッチに従って進めていくよりも、素材をいじりながら形を生み出していくことが多い。図面に基づいてつくり込むものづくりとは必ずしも相反するわけではないが、あえて異なるアプローチとして紹介することで、ものづくりの多様性を考えるきっかけになればと思う。ガラスに関わったのは大学に入ってからだけど、最初からガラスを学ばなかったわけではない。何となく立体デザインを専攻し、よく分からないまま基礎練習ばかりさせられて「こんなことをやりたいんじゃない」と思ってドロップアウトしそうになったとき、ガラスコースが新設されたのでやってみたら面白くて没頭した。ここで、吹き竿に息を吹き込んで溶けたガラスを膨らませてつくる「宙吹き」という技法に出会い、現在もこの方法で作品をつくっている。

■ つくる過程で生まれる形

卒業後は助手として大学に残った後、ドイツに渡ってヨーロッパの吹きガラスを学んだ。帰国してからは、砂をガラス表面に吹き付けて削るサンドブラストという技法で仕事をしていた。透明なガラスの表面を装飾により可視化させると、そのもの自体の形が見えてくる面白さがあって、しばらく続けた。ただ、そのうち自分には合わないことに気づき、吹きガラスをやりたいからこの道に進んだことを思い出し、原点に帰って1ヶ月ほど作業場で溶けたガラスと向き合った。改めてこの技法について自分なりに考える機会になったと思う。学校だったら「こういうものは、こういうやり方で作るんだよ」といって、瓶やワイングラスなど具体的な形をつくるための方法を習う。だけど僕の場合は、形をつくっていく過程で彫刻のように美しく洗練させていくことを目指して取り組んでいた。もちろん大まかな完成イメージは頭に描くけど、「何をつくるか」よりも「どうつくるか」ということに重点を置いていたと思う。

■ 美しい形を、使い道に落とし込む

彫刻的なものをつくる延長線上にあったのが、もともと僕があまりつくろうと思っていなかった器の制作。吹きガラスで作品をつくる場合、吹き竿で膨らませたガラスをポンテという別の竿に移すんだけど、その際に口の部分ができて引っ張ったら注ぎ口になり、持ち手をくっつけたら片口とかピッチャーになる。綺麗な形をつくるという点で彫刻も器も同じなんだけど、器の場合は使い道に落とし込むことが必要。当時、やたら大きな器



なんかもつくっていたんだけど、使い手に「これ、ワインを入れるのにいいかも」とか無理やり用途を見つけてもらったりしてね。使い道に落とし込むことは要するにデザインすることだから、使いやすい大きさとか重さとか手に馴染むフォルムとか、いろいろな条件を解決しなければならない。「これは譲れない」という自分なりのルールもあるので、全てを満たしたものをつくるのは難しいんだけどね。

それを洗練されたものにブラッシュアップするためには、結局のところ100個とか数をつくらなければ難しいと思っている。最初からいいものができることもたまにあるけど、納得できるものをちゃんとつくるには試行錯誤の回数が欠かせない。中世ヨーロッパなどの骨董がなぜ洗練されているかというと、数百年という時間の中で改良や挑戦を積み重ねてきたからだと思う。

■ 自由に再構築できる素材

ガラス瓶は中が見える容器なので、外側からは内側を別世界として捉えることができる。そんなことを考えながら、ガラス作品が標本のように瓶の中に入っているシリーズをつくった(写真「さわれないもの」)。見る人に「さわりたいけど、さわれない」と感じさせる遊びのオブジェで、古典的なギミックだけど透過性のあるガラスという素材の特性を活かした手法だと思う。また、ガラスというのは面白い素材で、1年前につくったものや割れたものでも、溶かすと何度でも再構築できる。複数のパーツをコラージュのように組み合わせると、ひとつの塊にしたら面白いと思ってつくったら不思議な魅力のある造形ができた(写真「謎」)。もともと何かよく分からないものの方が面白いと考えていて、よく分からない作品だから「謎」というタイトルにした。

■ 理にかなったものづくり

古い陶器のフォルムや色味を見たときに、どこか不揃いだけど違和感がないのは何故だろうと考えたことがある。抽象的な言葉になるが、理にかなっているということではないだろうか。学校でつくり方とか道具の使い方は習えるけど、もっと原理的なことを理解する必要があると思う。吹きガラスはフリーハンドで仕上げる技法で、重力とか遠心力を利用しながら温度や硬さが変わる素材を臨機応変にコントロールしなければならず、いくら古典的なつくり方や道具の使い方をマスターしても十分ではない。原理的なことが分かってくると、道具に頼りすぎずとも素材の特性や物理的な力を応用して目指す形が生み出せる。それが理にかなうってことじゃないかな。



	名称・日時	内容	備考【場所】
1 デザイン開発支援事業	デザインアドバイザー事業		
	●商品開発研究会		
	2025/5/21	デザイントレンド分析「ミラノサローネ2025視察報告」	講師：桐山 登士樹(県総合デザインセンター 所長) 【県総合デザインセンター】
	2025/6/11	企業視察	【YKK AP(株) YKK AP技術館】
	2025/7/25	デザイン講習会 「素材・技術・文化の持続可能な在り方を目指すものづくり」	【県総合デザインセンター】
	2025/8/5	企業視察	【飛騨産業(株)(岐阜県高山市)、 (株)飛騨の森でクマは踊る(岐阜県飛騨市)】
	2025/9/8	富山デザインコンペティション2025 1次審査(内覧会)	【県総合デザインセンター】
	2025/9/24	第175回ナイトフォーラム 「形はどこから生まれるか—ものづくりの二つのアプローチ」	【Glass×Café Clié】
	2025/11/20	「DESIGN with FOCUSデザイナーの冒険展」ギャラリーツアー	ガイド：桐山 登士樹(富山県美術館 副館長) 【富山県美術館】
	2025/11/28	富山デザインコンペティション2025 最終審査会・授賞式・意見交換会	【東京ミッドタウン リエゾンセンター(東京都港区)】
	2025/12/19	富山デザインコンペティション2025 作品展 ギャラリートーク	【Glass×Café Clié】
	2026/1/29	アップサイクル創出プロジェクト「ばっかいんぐ 第3回カンファレンス」	【ケースメタル(株)、県総合デザインセンター】
	2026/3/10	とやまデザイン・トライアル2025 デザインワークショップ成果発表会	【県総合デザインセンター】
●デザイン相談の対応			
		「商品開発についてアドバイスしてほしい」「企業の魅力や商品を効果的にPRしたい」「商品開発の補助事業を知りたい」といった様々な要望をもつ県内企業、個人事業者の方を対象にデザイン相談への対応。	〈相談形式〉対面・オンライン・出張訪問 相談時間/月曜日～金曜日(祝日は除く)9:00～17:00
デザインプロジェクト推進事業			
●ITセミナー			
2026/3/27	「レーザーカッターで作るオリジナル装飾」		【県総合デザインセンター】
●デザインプロジェクト推進			
2025/4～2026/3	富山県内のデザイン開発支援策として、企業にデザイナーを派遣し、デザインを軸に魅力ある商品開発プロジェクトを発起させ、県内のデザイン開発を推進する。		①支援企業：(株)タカギセイコー デザイナー：古井 翔真 ②支援企業：(有)へちま産業 デザイナー：(株)五割一分 ③支援企業：(株)かんでんエルファーム デザイナー：片山 諒 ④支援企業：(有)佐野政製作所 デザイナー：進藤 篤 ⑤支援企業：(有)波多蔵木工所 デザイナー：原田 一穂 ⑥支援企業：(有)正美創作 デザイナー：板谷 優志 ⑦美のこわけフェア告知物 ⑧支援企業：(株)河島建具
2 デザイン交流事業	●デザイン講習会		
	2025/7/25	「素材・技術・文化の持続可能な在り方を目指すものづくり」	講師：鈴木 僚、藤原 和輝(株)HONOKA.lab) 【県総合デザインセンター】 
	●ナイトフォーラム		
2025/9/24	第175回「形はどこから生まれるか—ものづくりの二つのアプローチ」		講師：高橋 禎彦(ガラス造形作家/富山ガラス工房 館長) 【Glass×Café Clié】

	名称・日時	内容	備考【場所】
3 情報発信事業	●デザイントレンド発信事業		
	2026/3/25	offer vol.53発刊	
4 PR強化事業	●デザイン雑誌情報		
	日経デザイン、AXIS、confort、ELLE DÉCOR、Casa BRUTUSなどのデザイン誌を整備し、デザインセンターライブラリーなどで閲覧するなどの情報提供を行う。		
	●産業観光		
	2025/4～2026/3	展示室のPR強化に向けた企画・提案・広報業務、展示室での案内・ガイド、スタンプラリーの実施	連携：県総合デザインセンター、高岡市デザイン・工芸センター、(株)能作、(株)富山県産業高度化センター 【富山県産業高度化センター 展示室】 
2025/7/19～8/31	夏の周遊シールラリー		
2025/9/20～10/19	「富山のてしごとに触れる展」		
5 「美のこわけ」創出事業	●商品開発		
	2025/7/15	第1回選考委員会	委員長：桐山 登士樹(県総合デザインセンター 所長) 委員：神川 康子(富山大学 名誉教授/睡眠・生活研究所 所長) 永田 佳子(販売アドバイザー) 山崎 亮子(ATELIER table 主宰) 【牛島屋舞夢館】
	2025/9/24	第2回選考委員会	
	2025/10/23	第3回選考委員会	
	●展示販売会・ワークショップ等		
	2025/8/29～9/11	美のこわけフェア～「葉都とやま」の植物と眠り～	【日本橋とやま館(東京都中央区)】
2025/12/13～14	美のこわけ 睡眠リトリート(1泊2日ツアー)	【土肥邸母屋】	
2026/3/27～4/9	美のこわけフェア～眠りと暮らしの“めぐり”～	【日本橋とやま館(東京都中央区)】 	
●販売支援			
2025/4～2026/3	県内の商業施設や観光・宿泊施設など10店舗で販売		【牛島屋舞夢館、金太郎温泉、小屋のじかん、CHILLING STYLE、D&DEPARTMENT TOYAMA、まいどは屋(富山きとくと空港)、マルクス、瞑想の郷、高岡伝渡(イオンモール高岡)、ファニチャーパークK3】
●情報発信			
2025/4～2026/3	「美のこわけ」公式インスタグラム(@binokowake) 公式サイト(https://binokowake.base.shop/) note(https://note.com/binokowake_893/all)		
6 CD・HUB プロジェクト	●ものづくり産業サーキュラーエコノミー推進事業		
	ばっかいんぐカンファレンス		
	2025/6/26	第1回 (株)島田木材	チームBACCAIng：県商工労働部、県総合デザインセンター、県産業技術研究開発センター、富山大学、富山県立大学、(公)富山県新世紀産業機構、トリニティ(株)
	2025/8/21	第2回 (株)HARITA	【富山産業展示館 テクノホール】
2025/10/30～11/1	T-Messe2025富山県ものづくり総合見本市 出展		
2026/1/29	第3回 ケースメタル(株)		
7 クリエイティブ人材教育・活用促進事業	●デザインワークショップ		
	2025/8/25～29	デザインワークショップ 【学生部門】	受入企業：アルミファクトリー(株)、三協立山(株)、(株)タニハタ 参加者：9名(香川大学、専門学校桑沢デザイン研究所、千葉大学、日本大学) 【県総合デザインセンター、受入企業】
	2025/9/24～26、10/1～3	デザインワークショップ 【社会人部門】	受入企業：(株)小泉製作所、(株)ナカノ 参加者：2名 【県総合デザインセンター、受入企業】
	●産学官連携ワークショップ		
2025/6/13～8/1	富山大学芸術文化学部×サカエ金襴(株) 「心をととのえるライフスタイルプロダクトの開発」		企業：サカエ金襴(株) 大学：富山大学芸術文化学部 【サカエ金襴(株)、富山大学、三井アウトレットパーク 北陸小矢部】
●作品展示			
2026/1/20～3/31	TOYAMA DESIGN TRIAL 2025 展		【富山県産業高度化センター 展示室】

	名称・日時	内容	備考【場所】
7 クリエイティブ人材教育・活用促進事業	●成果発表 2026/3/10	とやまデザイン・トライアル2025 デザインワークショップ成果発表会	ゲスト：本田 圭吾 (専門学校桑沢デザイン研究所プロダクトデザイン専任講師) 参加企業：デザインワークショップ受入企業(アルミファクトリー(株)、(株)小泉製作所、三協立山(株)、(株)タニハタ、(株)ナカノ) 【県総合デザインセンター】
	●報告書発行 2026/3	TOYAMA DESIGN TRIAL 2025 ANNUAL REPORT	
8 富山デザインウェブ	●デザインウェブ開催委員会 2025/5/22	2024年度報告と2025年度事業計画案の承認	【県民会館】
	●富山デザインコンペティション2025 2025/6/23～8/22	「ガラスとメタル」をテーマに作品を募集	
	2025/9/8	1次審査 作品シートによる審査を行い、最終審査を進む入選作品10点を選出	審査員：野田 雄一(ガラス造形作家/元富山ガラス工房 名誉館長) 安次富 隆(プロダクトデザイナー/ 多摩美術大学 生産デザイン学科 教授) 岡 雄一郎(県総合デザインセンター デザインディレクター) 進行：平野 尊治(県総合デザインセンター 主任研究員) 【県総合デザインセンター】
	2025/11/28	最終審査・授賞式・意見交換会 	審査員：川上 元美(デザイナー/川上デザインルーム 代表) 鈴木 啓太(デザイナー/ (株)PRODUCT DESIGN CENTER 代表) 安西 葉子(クリエイティブ・ディレクター・デザイナー/ DRILL DESIGN Co.,Ltd. 取締役) 岡 雄一郎(県総合デザインセンター デザインディレクター) 進行：桐山 登士樹(県総合デザインセンター 所長) 【東京ミッドタウン リエゾンセンター(東京都港区)】
	2025/12/19	ミーティング (富山デザインコンペティション入賞者による富山ものづくり視察)	【(有)色政、(株)平和合金、富山ガラス工房】
	●デザイン展 2025/12/12～21	「富山デザインコンペティション2025 作品展」富山市会場	【富山ガラス工房 ギャラリー】
	2026/1/9～18	「富山デザインコンペティション2025 作品展」高岡市会場	【高岡市デザイン・工芸センター 展示室】
	●ギャラリートーク 2025/12/19	「ガラスとメタル」	【Glass×Café Clié】
	●報告書発行 2026/2/24	toyama design wave 2025	
	●商品流通支援活動 2026/1～	商品化、プロジェクト化 作品の商品化や新たなプロジェクト創出を推進	
9 富山プロダクト選定事業	●募集 2025/6/2～8/29	集中募集	
	●選定委員会 2025/9/9	応募された20社31点の商品の中から14社17点を「富山プロダクト」として選定 	委員長：桐山 登士樹(県総合デザインセンター 所長) 選定委員：内田 和美(富山大学芸術文化学部 教授) 進藤 仁美(ディアンドパートメント(株) D&DEPARTMENT事業部 富山店 店長) 加藤 健((公)富山県新世紀産業機構 中小企業支援センター 次長) 秋元 宏(高岡市デザイン・工芸センター 所長) 茂木 新之助((株)大和 プロモーション事業部 部長) 岡 雄一郎(県総合デザインセンター デザインディレクター) 【県総合デザインセンター】
	●選定証交付 2025/10/1	富山県知事より選定証を交付	選定企業：(株)大井仙樹園、(株)カジメイク、勝星産業(株)、(株)小泉製作所、 (有)佐野政製作所、三協立山(株) 三協アルミ社、(株)スズニット、 DAIKEN(株)、(株)タカタレムノス、(有)中村製作所、(株)二上、 (有)へちま産業、(株)山口久乗、(株)リッチェル

	名称・日時	内容	備考【場所】
9 富山プロダクト選定事業	●展示会 2025/12/11～ 2026/2/8	「富山プロダクト2025展」 	【D&DEPARTMENT TOYAMA GALLERY】
	●リーフレット発行 2025/12～	TOYAMA PRODUCTS「土地と人の力で育った、富山プロダクト」	
10 デザイン普及指導事業	●富山デザインブランド販路開拓事業 2025/9/26～10/2	「チルオアシスとやま」プロモーション	【日本橋とやま館(東京都中央区)】
	●デザインセミナー 2025/12/19	デザインセミナー「ガラスとメタル」	ゲスト：河崎 圭吾(金沢美術工芸大学 インダストリアルデザイン専攻 教授) 野田 雄一(ガラス造形作家/元富山ガラス工房 名誉館長) 岡 雄一郎(県総合デザインセンター デザインディレクター) モデレーター：桐山 登士樹(県総合デザインセンター 所長) 【Glass×Café Clié】
11 サウナを活用した魅力発信トライアル事業	●ワークショップ 2025/5/10～11	第1回サウナ商品ワークショップ「FUROBAKKA FES」	参考企業：五洲薬品(株)、(株)MAE、(株)プロジェクトデザイン、 (株)今井機業場、サカエ金襴(株)、北陸の地産地湯CoHoKa、 (有)へちま産業、藍染め屋aiya、富山めぐみ製菓(株) 【湯屋FUROBAKKA】
	2025/10/11～11/9	第2回サウナ商品ワークショップ「TOYAMA SAUNA WEEK」	参考企業：五洲薬品(株)、(株)MAE、(株)プロジェクトデザイン、 (株)今井機業場、サカエ金襴(株)、北陸の地産地湯CoHoKa、 (有)へちま産業、藍染め屋aiya、富山めぐみ製菓(株)、田中園芸、 (株)ミヤモリ、muxx 【湯屋FUROBAKKA、天然温泉風の森、Sauna Talo Toyama】
	●セミナー 2025/8/8	第1回サウナセミナー	講師：川田 直樹(ココヨサウナ部 部長/ JAPAN SAUNA-BU ALLIANCE 共同代表) 【Healthian-wood The Hive・The Kitchen】
2025/10/21	第2回サウナセミナー	講師：五塔 熱子(アフグースマスター) 【D&DEPARTMENT TOYAMA】	
●展示会 2025/10/17～12/7	サウナ展覧会「75°C-しぜんとつながる富山のサウナ-」	【D&DEPARTMENT TOYAMA GALLERY】	
12 その他	●セミナー等 2025/6/23	出前県庁しごと談義「デザインで何がかわる？」	講師：窪 英明(県総合デザインセンター 統括研究員) 【県立富山北部高等学校】
	2025/6/26～27	富山からヒット商品を作る農商工連携ワークショップ 「売れる商品にするための意見交換」	講師：岩城 紀子(Smile Circle(株) 代表取締役) 窪 英明(県総合デザインセンター 統括研究員) 【県総合デザインセンター、富山県総合情報センター】
	2025/7/2～4	インターンシップ： 県立高岡工芸高等学校 デザイン・絵画課 生徒3名 受入	【県総合デザインセンター】
	2025/12/11	きらめきエンジニア事業「ものづくりとVR」	講師：平野 尊治(県総合デザインセンター 主任研究員) 【県立魚津工業高等学校】
	2026/1/21	出前県庁しごと談義「デザインとブランド 富山の開発事例」	講師：窪 英明(県総合デザインセンター 統括研究員) 【片山学園高等学校】
	2026/2/13	富山県総合デザインセンター外部評価委員会	【県総合デザインセンター】
2026/3/3	きらめきエンジニア事業「3Dプリントと3Dデータ」	講師：平野 尊治(県総合デザインセンター 主任研究員) 【県立高岡工芸高等学校】	
●常設展示 2025/4～2026/3	富山プロダクト選定商品、幸のこわけ、美のこわけ、富山デザインウェブ 入賞作品等の常設展示(開館時間：9時～17時、休業日 祝日、年末年始)	【富山県産業高度化センター 展示室】	



■発行日/2026年3月25日

■企画・編集/オファー編集部 ■発行/総合デザインセンター 〒939-1119 富山県高岡市オフィスパーク5番地 TEL 0766-62-0510 FAX 0766-63-6830 ホームページ www.toyamadesign.jp

■編集長/桐山登土樹 ■編集/溝口千賀子 堀越友里 ■クリエイティブディレクター/吉崎真弘 ■デザイナー/柿本萌 ■ライター/吉崎真弘 ■撮影/室澤敬晴 ■印刷・製本/能登印刷株式会社